

1. 基本情報技術者試験の位置づけとメリット

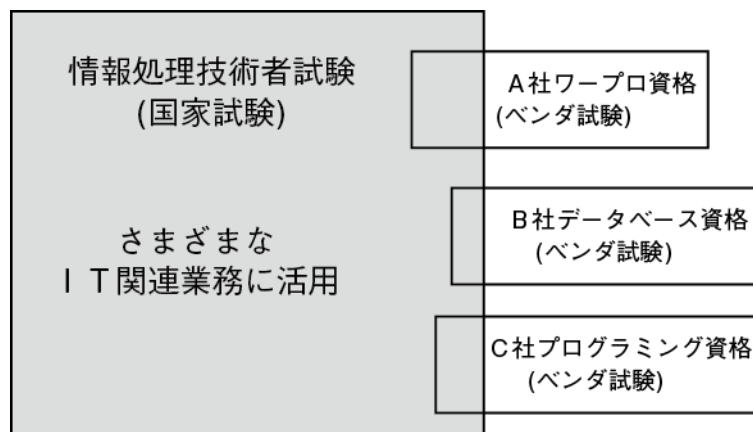
基本情報技術者とは

基本情報技術者試験 (FE 試験) は、経済産業省が実施する情報処理技術者試験の一つです。情報処理技術者試験の活用対象は

情報システムを構築・運用する「技術者」から情報システムを利用する「エンドユーザ (利用者)」まで、**IT に関係するすべての人**に活用いただける試験として実施しています。特定の製品やソフトウェアに関する試験ではなく、情報技術の背景として知るべき原理や基礎となる技能について、**幅広い知識を総合的に評価**しています。

(情報処理技術者試験センターHP <http://www.jitec.ipa.go.jp> より)

とされており、非常に幅広い層を対象としています。各ベンダが実施している資格試験のような、特定の製品やソフトウェアに関する試験ではありません。このため、一部の企業や職種でしか活用できないということはなく、どなたでも資格取得のメリットが得られる試験となっています。



FE 試験は、知識・技能のレベルに応じて3段階になっている試験区分構造のうち、最も「基本的」な機能・技能を問うものになっています。



(情報処理技術者試験センター発行 「“情報処理安全確保支援士”と

現行の情報セキュリティスペシャリスト試験の位置付けについて」プレスリリースより)

試験センターが FE 試験で「期待される技術水準」として提示している内容を整理すると次のようになります。

- ・IT を活用した戦略立案に関する基本的な事項を理解し、上位者の指導の下に分析や評価、提案活動への参加が行える。
- ・システム設計や開発、運用に関する基本的な事項を理解し、上位者の指導の下にシステムの設計・開発・運用やソフトウェア設計が行える。

典型的な人材イメージとしては「システム開発チームや、システム戦略チームのメンバー」に近いでしょう。皆さんが IT 関連のキャリアを進めていく道筋の、ちょうど入り口に該当する資格といえます。

基本情報技術者 資格取得のメリット

FE 資格で得られるスキルは、いわゆる SE（プログラマ）の方々の業務はもちろんのこと、そうでない人にとっても、日々の業務においてさまざまな場面で活用できます。

●システム開発関連企業での業務全般

いわゆるベンダ系・SI 系の企業では、とうぜん「システム開発に関するスキル」が広く求められます。FE 試験はプログラミングだけでなくビジネス関連知識まで含めた、ベンダが備えるべき幅広い知識範囲をカバーしているので、資格を取得することでオールマイティなシステム系人材としてのスタートを切ることができます。

●ユーザ企業における、システム化関連業務

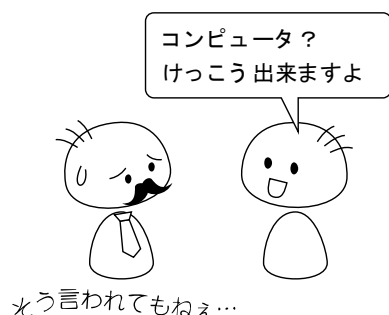
ベンダ系・SI 系企業でなくとも、近年では至るところに IT 化の波が押し寄せています。システム化の計画を立て、外部ベンダの選定や取引を行うさい、基礎知識が有ると無いとでは、成果が大きく違ってきます。FE 試験レベルの基礎知識を備えることで、社内で「システム化についてしっかり任せられる人材」という立場で評価を受けることができます。

●ユーザ企業における、各種業務の効率向上

システム化に関連しない日々の業務でも、FE 資格の知識が寄与することは多いでしょう。たとえば表計算ソフトを用いて大量のデータを整理しているならば、アルゴリズムの知識を活用して大幅な自動化が期待できます。また、ネットワークやセキュリティの基礎知識を身に付けておけば、日々のトラブルに迅速に対応することができます。

このように広くメリットが期待できる資格なので、就職・転職時のアピールにおいて有利となるでしょう。情報処理技術者試験は IT 関連で唯一の国家試験であり、数万人が受験する規模の大きな資格試験なので、企業における認知度もバツグンです。

〔 資格がないと … 〕



〔 資格があれば 〕



一部の企業では、資格手当や一時金などの報奨金制度や昇級の条件に、基本情報技術者の取得を位置づけています。また、大学では履修単位や特待生などの対象にしているところもあります。